

株式会社 神戸製鋼所  
(コード番号) 5406

## 平成15年3月期 決算見通しについて

当社の第150期(平成15年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

### (1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、上半期には外需主導による緩やかな景気回復が見られたものの、米国経済の減速に伴い輸出に翳りが見え始めたことに加え、国内でも民間設備投資の低迷や個人消費の伸び悩みに加えてデフレ圧力が高まるなど、引続き厳しい状況で推移しております。

このような状況の中、鉄鋼関連事業の国内需要については、民間設備投資や建設投資において厳しい状況が続いているものの、上半期からの在庫調整の進展による生産活動の持ち直しに加え、自動車生産が高い水準を継続するなど、下半期の内需は上半期を上回る見通しであります。一方、輸出については、主力のアジア諸国向けが引続き堅調と見込まれるものの、季節的に不需要期となるため、上半期に比べて減少する見通しであります。全国粗鋼生産については、国内需要が堅調であったことから、1億900万トン台と前回見通しを上回る水準となる見込みです。

その他の事業においても、前回見通しどおり概ね堅調に推移していることから、当期の売上高は前回見通しに比べて100億円増収の11,900億円程度となり、経常利益は前回見通しに比べて20億円増益の300億円程度となる見通しであります。

一方、税引後の当期損益については、株式市況の低迷に伴い、上場株式を中心に多額の評価損を特別損失に計上せざるを得ない状況にあることなどから、前回見通しに比べて90億円減益の10億円程度となる見込みです。

### 【連結決算見通し】

(億円)

	売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	11,900	300	10
前回見通し(昨年11月21日)	11,800	280	100
(参考)前期実績	11,980	135	285

## ( 2 ) 単独決算見通し

当期の売上高は、前回見通しに比べて 100 億円増収の 8,100 億円程度となり、経常利益は前回見通しに比べて 10 億円増益の 170 億円程度となる見通しであります。

しかしながら、株式市況の低迷に伴い、上場株式を中心に多額の評価損を特別損失に計上せざるを得ない状況にあることなどから、税引後の当期損益は前回見通しに比べて 80 億円減益の 40 億円程度となる見通しであります。

### 【単独決算見通し】

( 億円 )

	売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	8,100	170	40
前回見通し(昨年 11 月 21 日)	8,000	160	40
(参考)前期実績	7,939	40	209

### 〔配当について〕

当期の配当につきましては、平成 15 年 3 月末においても引続き欠損金を計上する見通しであることから、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

以 上